

木育かわら版は宮崎県森林環境税が使われています

CONTENTS

- 第2期モデル園スタートアップ研修 …………… 1
- 木育マイスター研修 …………… 2
- みやぎき木育プログラム「森の雫」 …… 3
地域サポーター養成講座&スタートアップ
- 木材産業界と連携した意見交換会 …………… 4

木育マイスター研修

日 時：令和5年10月27日(金)10:00~16:00
場 所：宮崎県東臼杵農林振興局(延岡市)
講 師：①松井 勅尚 氏(木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授)
②梶原 和徳 氏(宮崎県山村・木材振興課 木材産業担当)
③福田 浩之 氏((有)ヤマヨシ住宅産業 代表取締役)
田丸 貴久氏((有)マルウッド 代表取締役)
④吉田 理恵 氏(ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師)
参加者：研修受講者3名 [見学]延岡市職員1名、東臼杵農林振興課職員1名

みやぎきの目指す木育を達成するために開発された、幼児期から始める「みやぎき木育プログラム」を広く啓発・推進していくために、宮崎県の施策を理解し、木材産業や木材に関する基礎知識と木工道具の安全な使い方を指導できる技術を学び、またそれを木育リーダーや園児に伝えるスキルを養うための研修会を実施しました。

①木材乾燥について基礎知識

松井先生より、木育プログラムの材料として木材を扱う立場として、木材のグリーン材(生材)から板になるまでの間の「乾燥」という重要な部分の基本を学びました。乾燥には、自然に吹く風を利用した「天然乾燥」と機械を使った「人工乾燥」の2通りがあること。水を含んだ割合を「含水率」と言い、伐った段階から木材の中の水分が蒸発し、残っている割合を示したのが含水率であること。木材が材料になった時の含水率で変形(反りや割れなど)に影響があることを学びました。

②木材乾燥の必要性和その原理について

宮崎県山村・木材振興課の梶原氏より、木材の品質を高めるためにも乾燥が重要であること、その研究が木材利用技術センターで行われていることが説明されました。県では、高温を利用して割れないよう乾燥する、高温セット処理を用い、割れない製品を進めています。そうすることで、寸法品質も良く見栄えも良く消費者も納得する高品質の製品になることが分かりました。

③現場での木材乾燥について

企業ではどのように乾燥を行っているのかを、まず、(有)ヤマヨシ住宅産業の福田氏に話していただきました。高温乾燥の場合は木材の色が濃くなるが、低温乾燥は時間がかかるが変形が少なく色が変わらないのが良いということです。その後、(有)マルウッドの田丸氏が自社製品で、伐りたてのものから数か月経った製品で、含水率がどのくらい違うかを含水率を図る道具で見せてくれました。

◆オビスギの箸置きづくり及び現場での働き方や指導方法

吉田先生の指導のもと、延岡市役所職員と東臼杵農林振興課職員も参加し、木育マイスター受講者とともに、年少児の2回目のプログラムである、「オビスギの箸置きづくり」を行いました。その後は、2グループに分かれ、園で実践する際、どのように指導するのが良いのかを話し合いました。いろんな意見が出る中で、子どもに伝えたいことを絞り込みました。12月に実践を行う匹田さん、緒方さんがどのようなことを伝えたいかを考え選んだのは、匹田さんは、まず、木とは何か、木で出来ているのは何か、というのを説明したい。緒方さんは、日本の食事における食器の並べ方と建具についてを説明することを前提に、園での実践に向けて準備することになりました。

その後は、今後、木育マイスターとしての活動していくうえで、活動できる範囲など具体的に意見を出し合いました。

◆振り返り

子どもはそもそも木は分かっているのだろうかという意見があった。そこから覆して分かりやすい説明をした方が良いのではないかと思つた時に、この木をどう説明するか、教材を説明するか改めて勉強になりました。(吉田先生)県の事業で動いているので税金で動いています。これは未来への投資であり意識を変えていかないといけない今の問題です。(松井先生)



ひかりの森こども園 (三股町)

地域サポーター養成講座

木育マイスター受講者の緒方さんが、「箸置き」のプログラムが第1期のモデル園である四季の森こども園の園長先生の想いから生まれたプログラムであることを伝え、この「箸置き」は、箸の先っぽが汚れないようにするためのもので、汚れを体の中に入れてないようにする、体を守ってくれるものであることを説明しました。材料は前回同様、スギであること、建具と同じ技術である作られていることから障子を見せ説明しました。また、障子は調湿作用があり、埃や臭いを吸い取るので、体に良いことを話し、箸置きも障子も、私たちの体を守ってくれるという共通点から、箸置きプログラムを通じ、日本の文化である建具にも意識して欲しいことを伝えました。年長までのプログラムで一貫して意識してほしいのが“姿勢”であり、姿勢が与える悪い影響を伝えました。サポーターが作ったものが子どもたちの見本になること、また、子どもと作る時は、サポーターが指導者



になって欲しいと伝えたくて、箸置き作りに入りました。

「オビスギの箸置き」づくり

前回の「森の雫」の振り返りから入りました。今回の材料が同じ「木」であること、障子と同じ材料であることを話しました。その後は、保護者でもあるサポーターが作り方を教え、完成させました。

振り返り

「子どもたちの年齢にあった内容でした。一緒に作業して、「こんなに乾くんだね！こういう風に丸くなるんだね」という感想もあり良い経験が出来ました。(保護者)「前回よりも成長していると感じました。個人差はありますが園児の作業するタイミングで集中しており、それぞれの成長が感じられました。園児が自分で触れながら作る作業では保護者が上手く声掛けをしており関わりがすごく良かったと感じました。(吉田先生)「入場してくる園児を見て、前回の時と同様で熱中しており、空気感が良いと感じました。きっと園で良い時間を過ごしているんだと思いました。いろんな意味で心も体も良い時間を作っているんだと感じました。(松井先生)

みやざき木育プログラム「オビスギの箸置き」 地域サポーター養成講座&実践

指導：松井 勲尚 氏 (木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授)

吉田 理恵 氏 (ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師)

日時：令和5年12月7日(木) 9:00~11:00 場所：ひかりの森こども園(三股町)

令和5年12月8日(金) 9:00~11:30 場所：あやめ原こども園(都城市)

実践者：みやざき木育マイスター受講者 緒方 由紀子 さん(ひかりの森こども園) / 匹田 翔 さん(あやめ原こども園)

木育マイスター受講者の実践として、地域サポーター養成講座とみやざき木育プログラム年少児対象「オビスギの箸置き」を行いました。

あやめ原こども園 (都城市)

地域サポーター養成講座

木育マイスター受講者である匹田翔さんが講師となりサポーター養成講座を行いました。

「オビスギの箸置き」の作り方について説明し、子どもへの声の掛け方なども考えながら制作して欲しいことを伝えました。

「オビスギの箸置き」づくり

まず、「木」とは何か、ということ、映像を見ながら説明しました。そして、木が山で伐られ、製材されてから、私たちのもとに来るまでの流れを動画で紹介し、子どもたちは興味深く熱心に見ていました。材料になるまでに、たくさんの人たちが関わっていることを伝え、その方たちの想いも涙み、姿勢にも気を付け箸置きを作って欲しいことを伝え、取り組みました。作り終えた後には、材料が何だったかを振り返り、「木」を大事に使ってほしいと伝え終了しました。

振り返り

「思ったより集中し、姿勢もよく出来たので良かったです。」(サポーター)「身近な箸置き作りということで、生活に密接



しているというのが良かったし、親も楽しんで良かったです。」(保護者)「皆さんの感想の中に姿勢が良かったという話がありましたが、この園は立腰を大事にしている園ということもあり、だから姿勢も良いのかなと思いました。」(吉田先生)「ぜひ箸置きを使ってもえると良いですね。木の命を殺しているの、せめて出来るのは長く使うことです。もう一度大事にしたいだけと良いです。」(松井先生)

宮崎工業高校インテリア科での木育教室

生徒向け事後学習会の実施

日程:令和5年11月21日(火) 13:25~15:15

場所:宮崎工業高校

企業代表:都城木材(株) 営業課長 田平 浩史 氏

ランバー宮崎協同組合 専務理事 持永 直樹 氏

10月に実施した見学ツアー先の企業の方を学校に招き、学びの発表と意見交換会を実施しました。生徒は7班に分かれて、それぞれ発表を行いました。

1 1班 長倉樹苗園

今回の見学を通して、苗を植えるまでには土壌改良や試行錯誤された研究等、これまでの積み重ねがあることが実感できました。長倉樹苗園を見学して、宮崎のスギ生産量を誇らしく感じました。また、この仕事は、“仕事=お金”ではないことが分かりました。日本一を保っているのは、長倉社長のような方々の日々の積み重ねや努力があるからだと思いました。

2 2班 長倉樹苗園

今回、挿し木体験をさせて頂いたが、真っ直ぐでない穂木を挿すのがとても難しかったです。沢山の人が関わっていることが分かったので、無駄なく使いたいと思いました。

日本は、アメリカやドイツより林業をしている人が少なく、厳しい環境にあることが分かりました。

3 3班 宮崎県木材利用 技術センター

私たちの生活に使われている技術がたくさんの研究と実験で使われているのが分かりました。

4 4班 都城木材(株) 三股工場

運ばれてきた木をどこも無駄にせず建築木材に加工してSDGsなどに配慮し、質より量の少量多品目・受注生産のオーダーメイド制を取り入れたり、製材時に出る木くずや皮などを燃料として活用して環境に配慮していたことが分かりました。



5 5班 都城木材(株) 三股工場

家具を作るだけでなく、違う形で家具作りに携われる仕事もあると知り視野が広がりました。

家を建てる仕事の一段階前の仕事があることを知りました。

6 6班 都城木材(株) 三股工場

調べることで保存処理を学ぶことが出来ました。今後に活かしたいと思います。

7 7班 ランバー宮崎 協同組合

木材住宅のプレカットには色々な工法があることが分かりました。また、住宅の構造についてもたくさんのお話を学べました。

8 企業側から 感想・補足説明

- ・ランバー宮崎協同組合は、技術もあり、住宅着工も今後伸びないのではないかと、非住宅分野にも取り組んだり、設計士の育成にも取り組んでいます。
- ・年中植えられるコンテナ苗は夏に植えても大丈夫ということで、伐ってすぐ植えられるということで県でも推奨しています。
- ・杉の利用には、建物や家具などの一方で、ケミカル分野のリグニンなどにも活用が進んでいます。
- ・輸出については、ランバー宮崎協同組合では、韓国に月1ペースで建てています。またフェンス材も輸出しています。
- ・丸太も輸出していますが、宮崎の技術で製材、プレカットを付加価値をつけて出しています。
- ・宮崎はスマート林業も行っています。色々なことをやりながら林業も頑張っているの、興味を持って欲しいと思います。

令和5年度「みやざき木づかい」感謝状贈呈

日時：令和5年10月16日(月)
14:00～16:00
場所：ニューウェルシティ宮崎

県産材の「木づかい」に貢献した施設部門3施設、人材(設計者等)部門1者、普及啓発(活動等)部門4者に、河野知事より感謝状が贈呈されました。

施設部門

REBORN
～天星の透間～
(西米良村)

元々の古民家の雰囲気や壊さないよう大きな梁や桁を残しつつ、スギなどの県産材を活用して内装木質化した宿となっています。

野口遵記念館
(延岡市)

施設の内装に、延岡市産のスギ、ヒノキが使用され、ホール壁面には「鮎やな」をモチーフとした木ルーバーが全面的に設置されています。

延岡城・内藤記念博物館和室棟
(延岡市)

茶道などの多様な文化活動が行える数寄屋造りをモチーフとした和室は、真壁構造の柱や梁を現しにすることで、木の温かみを感じる空間となっています。



REBORN
～天星の透間～



小迫幸弘氏 五ヶ瀬町長
松岡明彦氏 榊岡林産
守川美輪氏 宮崎国際大学
川添英司氏 ゆうほく人
松岡明彦氏 榊岡林産
守川美輪氏 宮崎国際大学
河野県知事 川添英司氏 ゆうほく人

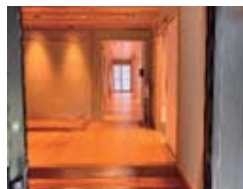
人材部門

レモン設計室 主宰 河野 秀親 氏

木の温もり+木構造+意匠デザインを基準とし、柱の大切さと魅せる木造建築をコンセプトに児童福祉施設など多数の設計監理に取り組まれています。



野口遵記念館



延岡城
内藤記念博物館和室棟

普及啓発部門

株式会社 日東
代表取締役
東 宗一郎 氏

地元の幼稚園等を対象に、自社で製材した木工キットを使用した木育教室などに取り組まれています。

**社会福祉法人宮崎県
社会福祉事業団障害福祉サービス事業所向陽園**

県の木育事業で使用する木育キットの開発、製作への協力や保育施設で木育講座などに取り組まれています。

**一般社団法人宮崎県
建築士会 宮崎支部**

伝統的な大工技術である貫工法を活用したジャングルジム「くむんだー」を九州に初めて導入して木育活動などに取り組まれています。

吉本工芸有限会社
代表取締役 吉本 有宏 氏

JLPGAツアーチャンピオンシップ リコカップにおいて導入された木製観戦スタンドの開発、施工を担われ、県産材の利用拡大に貢献されました。

木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえで、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ